

Event

市内の催し物情報を発信

イベントスケジュール

6日①・7日② 市連合婦人会 テレビ講演会 (放映日程)

時 13時30分～14時30分 ※チャンネルOで放映

内 人権講演会「認知症が私たち家族にくれたギフト」
講師：信友直子さん (映画監督、ノンフィクション作家)

問 生涯学習スポーツ課 ☎ 64・6033

※画面録画・撮影・録音は禁止します

※「令和3年婦人のつどい」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止します

7日② 季節の魚 加工体験教室

今回はイワシをテーマに、魚の下処理から行って、「イワシの蒲焼き」を作ります。

※調理した料理は、試食せずにすべて持ち帰ります

時 14時～16時 **所** 食文化館(川崎三丁目)

対 小学生以上(小学生は保護者同伴)

金 1,000円 **申** 3日前までに要事前申込、先着16人

問 食文化館 ☎ 53・1000

13日① 第7回 小浜市成人大学講座

コロナ禍であらためて生活リズムの確立を築く「眠育」の重要性や、脳づくりと心身の健やかな成長のために大切な乳幼児期の睡眠の働きについて学びます。講師は前田勉さん(NPO法人里豊夢わかさ理事長・日本眠育推進協議会理事)

時 14時～15時30分 **所** 中央公民館(大手町)

金 無料 **申** 前日までに要事前申込、先着35人程度

問 生涯学習スポーツ課 ☎ 64・6033

19日①・20日① 食文化館 季節の調理体験

黒豆ごはん、牡蠣と谷田部ねぎのグラタン、生ワカメと根菜のスープ、いちご大福を作ります。

時 いずれも10時～13時 **所** 食文化館(川崎三丁目)

対 小学生以上(小学生は保護者同伴)

金 1,000円 **申** 3日前までに要事前申込、先着16人

問 食文化館 ☎ 53・1000

20日① 認知症の人と家族の会「小浜のつどい」

現在介護中の人、介護を終えた人、認知症に関心がある人など、誰でも気軽に参加してください。

テーマ「冬の健康～運動不足を解消しよう～」

時 13時30分～15時30分

所 中央公民館(大手町) **金** 無料 **申** 申込不要

問 認知症の人と家族の会 世話人 森美津子さん ☎ 67・2341

3月初旬のイベント

7日② 令和2年度保護者セミナー

発達が気になりな子や学校への行き渋りがある子を持っていたり、子育てに不安があったりする保護者を対象にしたセミナーを開きます。今から実践できる子育てのヒントを学びましょう。

時 10時～12時 **所** サン・サンホーム小浜(遠敷)

内 「生きる力を育てるために、今できることは」
講師：龍谿乗峰さん(旧敦賀短期大学 教授)

金 無料 **申** 3月3日④までに要事前申込

問 CokoUta(小浜市母子の家児童発達支援センター) ☎ 53・2603

※会場施設内で託児も可能ですが、一時預かりなどのサービスを利用可能な人はご協力をお願いします

7日② 咲楽館講座発表会

時 10時～15時10分 **所** 働く婦人の家(大手町)

内 各講座の展示・体験・発表

※例年実施しているお茶席について、今回は中止します

金 入場無料

※体験については、費用(材料費など)が必要な場合あり

問 働く婦人の家 ☎ 52・7002

凡例 **時** = 時間 **所** = 場所 **対** = 対象 **内** = 内容
金 = 料金 **申** = 申込締切、定員など
問 = 問い合わせ先、申し込み先

今月号は
とくがわ たかふみ
徳川 貴文
がお届けします



地域おこし協力隊が、日々の活動や感じたことをレポート！

隊員たちのよもやま日誌

小浜の印象と

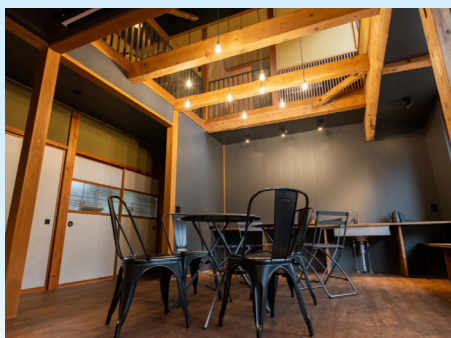
地域おこしへの再決意

「自然が近くて気持ち良いな」というのが、私が小浜に来て最初に感じたことです。山も海も近くて海岸線が入り組んだ独特の自然環境と、海の幸・山の幸がそれぞれ豊かであることはとても魅力に感じました。

私の活動拠点である志積は、内外海地区の集落のひとつですが、各集落は、距離は近くても海・波・風などの自然環境が異なり、水揚げされる魚種や漁法も違う、というのが非常に印象的でした。

隊員になって約半年が経ち、小浜を盛り上げようと活動する人たちを知る機会も増えました。その上で今、あらためて感じることは、ここで暮らす人々がよりイキイキされてこそ「地域おこし」「地域活性化」であるということです。

地域の人たちと一緒に、前向きに活動し、チャレンジしながらイキイキと暮らすこと。その結果として、観光客や関係人口が増え、経済的な効果につながる一助になれるよう、引き続き、協力隊として小浜で暮らしてまいります。



マネジメントを務める宿のラウンジは、宿泊者同士の交流はもちろん、地元の産品を展示販売するPRの場にも活用します。興味があればぜひお声がけください！

健康 生活のとびら

コロナ禍での

子どもの予防接種

子どもの受診が減少

今や全世界で脅威となっている新型コロナウイルス。休みの日に旅行することや、外で遊ぶことすら気を遣う日常となってしまう。そのような状況で、子どもの予防接種や検診に行きづらいつ感じることが多くあり、一時期は予防接種や定期健診を受ける子どもたちが減ってしまっている現象が、日本全国で起こりました。

予防接種とは

予防接種とは、ワクチンを投与することにより、疑わしいに感染を起すことでウイルスや細菌に対し、免疫を獲得するという仕組みです。国や自治体から勧められている予防接種のワクチンは、かつて多くの子どもたちの命を奪ってきたウイルスや細菌の抗体を作るために開発されたものであり、今では全世界の多くの子どもたちを救っています。予防接種の普及により天然痘が絶滅したことも有名です。



杉田玄白記念 公立小浜病院

■問い合わせ ☎ 52・0990

小児科
松尾星弥 医師

子どもにとって大切なこと

新型コロナウイルスの感染拡大が進行し、第三波による感染者数増加が日々叫ばれています。皆さまは、自分の子どもがいつ感染するかわからない中、毎日を過ごされているかと思えます。

しかし、こんな時だからこそ、子どもにとって本当に大切なことは何かを考える機会なのかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の流行下でも、可能な限り、予定通りに予防接種を継続していくことが非常に重要であると、日本小児科学会が発表しています。これを機に、日本全国の医療機関が一斉懸命努力し、子どもたちが安全に予防接種を行えるよう外来環境を整えています。

保護者の皆さまには、ぜひスケジュールを守り、予防接種を行っていただくようお願いいたします。

生守区の一画に、昨年11月にオープンした洋菓子店。店のオーナーであり、菓子の製造から販売まで、すべてを担っているのが的場さんです。小学6年生の頃から、菓子作りが好きだったと話す的場さんは、夢をかなえるために、専門学校で学んだ後にケーキ店に就職。3年かけて菓腕の腕を磨き、「自分でレシピから作ったケーキを、多くの人に食べてもらいたい」と、開業を決意しました。店には、日替わりでメニューが異なる小さなケーキや、焼き菓子が並

一人でも多くの方に届けたい

びます。オープン後の反響を尋ねると、「食べた方がおいしかったと言ってくださってうれしい」と、顔をほころばせる的場さん。「閉店後は仕込みをします。夕食を挟み、夜遅くまで作業をすることも。休日はケーキのレシピを考えています」と、菓子作りに打ち込みます。「的場さんは今後について、「慣れてきたら、ケーキの種類や数を増やしたい。おいしいと自信を持って出せるものを、一人でも多くの方に届けたいです」と、教えてくれました。



勤務先 パティスリー ネスポワール
Pâtisserie N'espoir
ま と ば のぞみ
的場 望 さん
(24歳・生守)

運動場で元気良く声を出し、練習を行う小浜第二中学校野球部では、1・2年生18人が活動しています。キャプテンの高橋くんは、小学3年生の時、1学年上の先輩に誘われて地元チームでの野球体験に参加したことがきっかけで競技の楽しさを知り、「中学入学後も野球を続けたい」と同部に入部しました。守備が得意で、強い当たりや捕るのが難しい打球でも、体で止めて捕球します。高橋くんが心がけていることは、意識して声を出すこと。「声を出す

声を出すことを心がける

と、チームの雰囲気は良くなります」と話し、「二中野球部のスローガンは『凡事徹底』です。当たり前のことを極めたい」と、気持ちを引き締めます。顧問の穴塚先生は、「中学生が一生懸命がんばることで、小浜を盛り上げていってほしい」と部員たちにエールを贈ります。高橋くんは、チームの今後について、「春の地区大会での優勝を目標に、みんなが試合を意識した練習ができるようにしていきたいです」と、爽やかな笑顔で語ってくれました。



野球部 キャプテン
たかはし やまと
高橋 大和 くん
(小浜第二中学校2年生)

人が行き交うにぎやかな通りに

紅殻格子の建物が軒を連ね、かつての茶屋街の風情を残す「三丁町」。上中さんは、一帯のにぎわい創出に取り組む市民団体「三丁町寄り合い」の結成メンバーの1人です。同団体は、昨秋に上中さんを含む有志6人で結成。昨年11月には、路上でバザーや飲食、体験などを楽しむ「三丁町バザール」を開催しました。「路地が無電柱化され、飲食店も多くなる三丁町は、ゆっくり歩いて風景やおいしいものを楽しむのに最適」と語る上中さん。

イベント当日の様子を、「予想以上のにぎわいで、自分の持ち場を離れないほどだった」と、苦笑しつつもどこかうれしそうに振り返ります。「自分たちの活動をきっかけにして、一人でも多くの人に三丁町の魅力を知ってほしい」と言う上中さん。「暖かい季節になって、新型コロナウイルスも落ち着いたら、定期的に催しを開きたい。最終的には、イベントのない普段から、さまざまな人が行き来するにぎやかな通りにしたいですね」と話してくれました。



三丁町寄り合い メンバー
かみなか ゆういちろう
上中 雄一郎 さん
(47歳・飛鳥)

スタミナ生かしてチームを鼓舞

19人の選手と2人のマネージャーが所属する、若狭高校サッカー部。キャプテンとしてチームを支えるのが、川瀬くんです。川瀬くんのポジションは、守備ラインの両翼に位置するサイドバック。豊富な体力と運動量が求められるポジションで、「スタミナには自信があります。疲れの出る後半でも積極的に声や指示を出して、チームを鼓舞したいです」と胸を張ります。部の雰囲気は「上下関係はあまりなく、フレンドリー」と語る川瀬くん。

「仲が良い分、いざという時に空気を引き締めるのが難しい。日頃から、あいさつや時間管理などプレー以外でもけじめある行動を心がけています」同部は昨年9月に、現体制で初の大会となる県大会に出場。川瀬くんは「苦戦しつつも1勝を挙げ、2回戦の強豪相手にも善戦できた。大きな収穫です」と振り返ります。今後の意気込みを尋ねると、「自分たち2年生は、春の県大会が最後の大会。悔いを残さないよう、全力を尽くします」と話してくれました。



サッカー部 キャプテン
かわせ たいち
川瀬 大地 くん
(若狭高校2年生)